

これまでのとりくみ(P・D)

学校教育目標 『自らの思いを伝えあい、共に学びあい、大木で経験したことを人生や社会に活用できる子ども』を育てる。

- 研究主題【「自分の思いを言葉にして表現できる子ども」の育成～相手に伝わるように表現を工夫して話そう～】
- ・表現する気持ちの育成:表現したいと思わせる題材の工夫、発表する場を児童集会などで設ける。
 - ・相手に伝わる「相手意識」に照らした自己検討を行い、発表する場の設定
 - ・学習規律の徹底:学びのルール 5 か条 ・自主学習:家庭学習ばっちり週間など

子どもが学ぶことのおもしろさやよさを実感できるはたらきかけを

教科の結果より

成果(強み) 自分の考えを書いて表す力の基礎・基本については、十分定着している。

- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
- ・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ・体積や小数の単位に関する知識・技能が定着している。
- ・基本的な計算問題の一部(小数の加法)も定着している。

課題 聞いたことや学んだこと、条件を複合的に使って考えるおもしろさを！

- ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容をとらえたり質問したりすることに課題がみられる。
- ・データの読み取りと根拠を示して説明する思考力・表現力に課題がみられる。

児童質問より

成果(強み) 学習に前向きに取り組んでいる

- ・ICT や資料を活用した学習に前向きで自信がある。
- ・授業での学習活動に積極的に取り組み、確かな学力が身につけていると自信がある。

課題

- ・「自分によいところがある」の肯定的回答が低く、今の学校生活に不安を感じている様子である。

全国学力・学習状況調査の結果より(C)

これからのとりくみ(A)

成果(強み)を伸ばすために

- ★上記の「これまでのとりくみ」を継続しながら、どの教科においても引き続き「できた」という達成感が持てるような授業づくり(5つのしん「安心」「確信」「自信」「親切」「信頼」を提供する授業)を行う。
- ★根拠と考えを明確にした伝え合う活動(図書館やChromebookの活用)
- ★さらに自分の考えや提案を発表する場を設定する。(スピーチ、ブックトーク等)

課題を克服するために「協働的な学び」

- ★相手の考えを聞き、自分の考えを深める力を高めていく。
- ★さまざまな情報を目的に応じて、整理・分析し、まとめる活動を行う。